

各位

会 社 名 株式会社アイロム
 代表者名 代表取締役会長兼社長 森 豊隆
 (コード 2372 東証第一部)
 問合せ先
 役 職 取締役 経営企画本部本部長
 氏 名 秀島 直樹
 電 話 03 - 5436 - 3148

平成 18 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成17年11月15日付の中間決算短信(連結)及び平成17年11月15日付の個別中間財務諸表の概要発表時に公表いたしました平成18年3月期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 連結業績予想数値の修正(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	12,300	2,040	1,120
今回修正予想(B)	12,500	1,020	530
増減額(B-A)	200	1,020	590
増減率	1.6%	50.0%	52.7%
ご参考:前期実績(平成17年3月期)	5,773	1,653	894

(参考)修正後の1株当たり予想当期純利益(通期)529円35銭

2. 個別業績予想数値の修正(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,323	1,502	787
今回修正(B)	3,200	750	410
増減額(B-A)	1,123	752	377
増減率	26.0%	50.1%	47.9%
ご参考:前期実績(平成17年3月期)	3,332	1,459	763

(参考)修正後の1株当たり予想当期純利益(通期)399円97銭

3. 修正の理由

アイロムグループはこれまで、S M O事業を通じて様々な新薬の開発に携わってまいりました。そこで蓄積してまいりました豊富な知識、情報、経験等のノウハウを患者のみならず患者予備軍や健康な人に対しても提供し、統合医療サポート企業として医療・医薬品・検査等の総合的な医療サービスの質の向上を図るべく、事業の拡大に努めております。

特に今期におきましては、アイロムグループにとって飛躍期であり、E B H (Evidence Based Healthcare: 明確な根拠に基づいたヘルスケア) を重視した商品、サービス、情報等を一般の消費者に提供することにより、患者予備軍や健康な人と医療をつなぎ、人々の健康維持に貢献することを目的とし、(株)アイロムロハス(旧(株)ヒノミ薬品)、小林製薬工業(株)、(株)テン・ドラッグの子会社化を始めとする積極的なM & Aにより事業を拡大してまいりました結果、連結売上高 12,500 百万円(前年同期比 116.5%増)と大幅な増収を見込んでおります。

(株)アイロムロハス(旧(株)ヒノミ薬品)におきましては、普段の生活から健康を考えられるライフスタイルを提案する病気や医療に関する情報ステーションとして、新コンセプトの薬局「ファルマルシェ」を展開し、事業拡大を図っております。また、小林製薬工業(株)におきましては、医薬品の製造受託に加え、高品質のオリジナルブランドの健康食品等の製造販売の準備を進めており、これらの事業は来期以降の業績に寄与するものと考えております。上記戦略に伴い、主力事業でありますS M O事業の売上高に占める割合は、他事業の拡大により相対的に低下しておりますが、利益面におきまして高い水準を保っており、引き続き事業規模の拡大を図ってまいります。

しかしながら今期におきましては、行政の新体制移行に伴う製薬企業における新薬開発の一時的な停滞等により、臨床試験の延期の影響等を受け、予定しておりました受注が来期にずれ込んだため、個別業績見通しは売上高、経常利益ともに修正を余儀なくされました。また、今期の連結業績見通しにおきまして、利益面では上記の個別修正理由に加え、M & Aに伴う販売費及び一般管理費の増加や店舗の統廃合に伴うコスト増等の計画以上の先行投資負担の影響により、見通しを修正することになりました。

S M O事業におきましては、新薬開発の現状は、外資からの導入時期は一巡し、国内外では次世代の新薬開発の段階に入っており、当社におきましては、第 Ⅲ 相試験やゲノム創薬を始めとした遺伝子領域への進出など磐石な体制を築いております。

今後、医と食の融合による様々なサービスを提供し、人々の健康管理に貢献する新しい環境及びマーケットの創造に注力する方針であります。

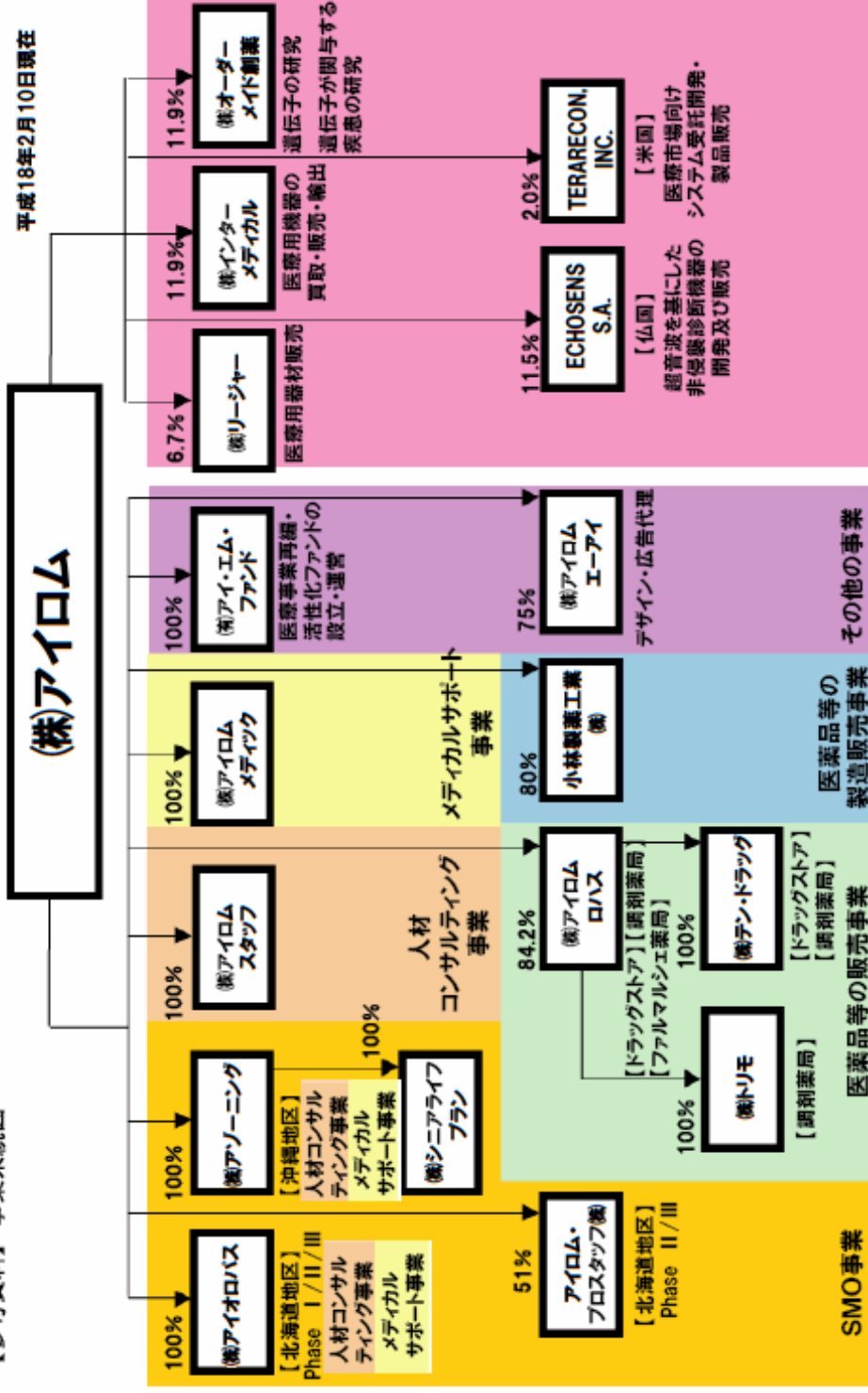
また、早期に各事業の基礎を固め、主力であるS M O事業と新規事業とを有機的に結びつけることで相乗効果を発揮し、グループ一丸となって、統合医療サポート企業として人々のヘルスケアの一翼を担ってまいります。

(【参考資料】事業系統図をご参照下さい。)

上記の業績予想は、本資料の発表日現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上

【参考資料】事業系統図



【連結子会社】12社

【インキュベーション】5社

※パーセンテージは出資比率を表しています。